

平成29年10月26日（木）  
（公財）石川県埋蔵文化財センター  
担当：調査部特定事業調査グループ  
GL 松山 和彦  
電話：076-229-4477 内線：6540

## 加賀市八日市遺跡<sup>ようかいち</sup>現地説明会の開催について

石川県教育委員会が独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構から依頼を受け、公益財団法人石川県埋蔵文化財センターに委託している北陸新幹線関連埋蔵文化財発掘調査における、加賀市八日市遺跡の現地説明会を下記のとおり開催します。

### 記

- 1 日 時 平成29年10月29日（日） 午前11時（1時間程度）小雨実施
- 2 場 所 加賀市八日市町地内 八日市遺跡発掘調査現場（別添図参照）
- 3 対 象 県民・考古学に関心のある方。（事前申し込み不要）
- 4 調査主体 石川県教育委員会  
調査担当：公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
- 5 調査期間 平成29年6月～平成30年1月（予定）
- 6 調査面積 3,290㎡（予定）
- 7 内 容 発掘調査の概要説明と出土品の公開
- 8 調査成果 八日市遺跡は、JR北陸本線加賀温泉駅の東約1.8km、柴山湯へ流れ込む八日市川沿いの低地に立地する。

発掘調査の結果、古墳時代前期頃（約1,700年前）の集落を確認し、  
<sup>ほったてばしらたてもの</sup>堅穴建物6棟以上、掘立柱建物9棟などのほか、南東から北西に流れていた川も確認した。

中でも堅穴建物の1棟（4号住居）からは、小型の炉跡5基が確認され、<sup>どうぞく</sup>銅鏃の未成品2点が出土していることなどから、小型銅製品を

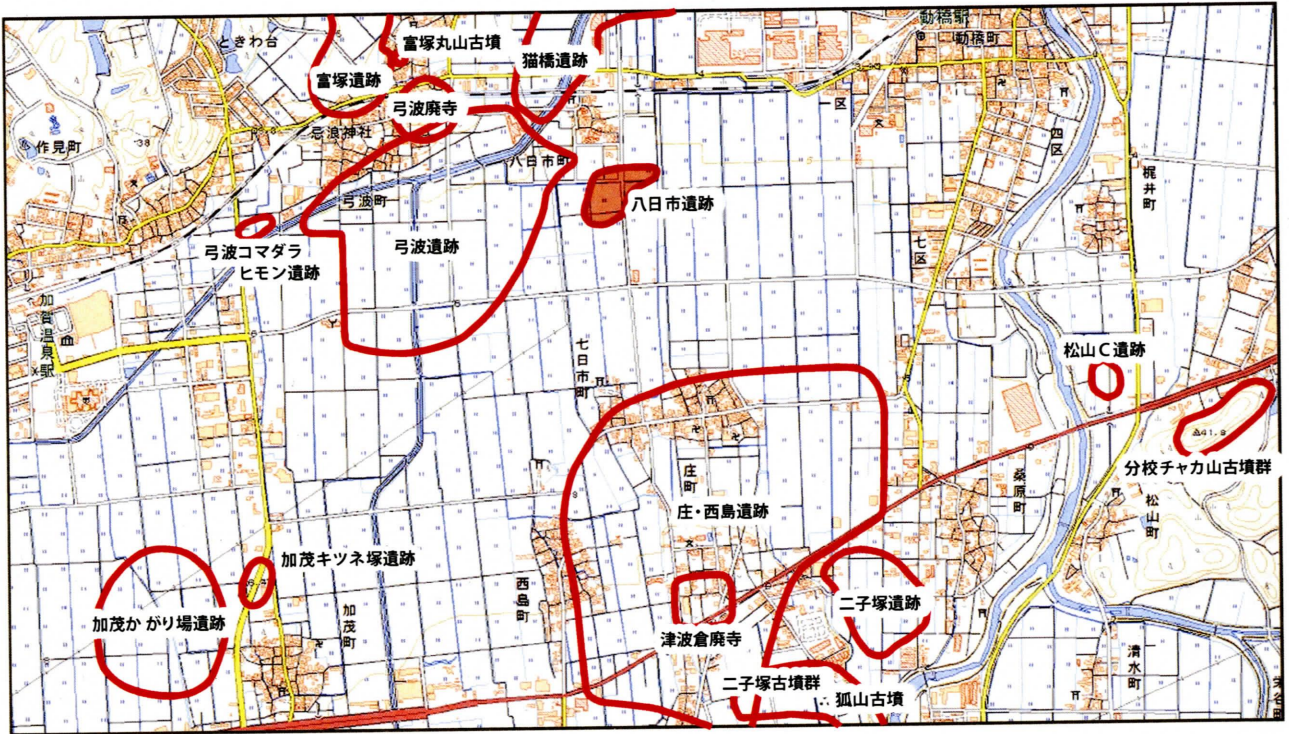
<sup>ちゅうぞう</sup> 鑄造・生産した工房であったと考えられる。

この時期の炉跡を伴う工房の確認例は、全国的にも極めて少なく、当時の銅製品鑄造技術や地方での生産の実態を考えるうえで、重要な発見である。

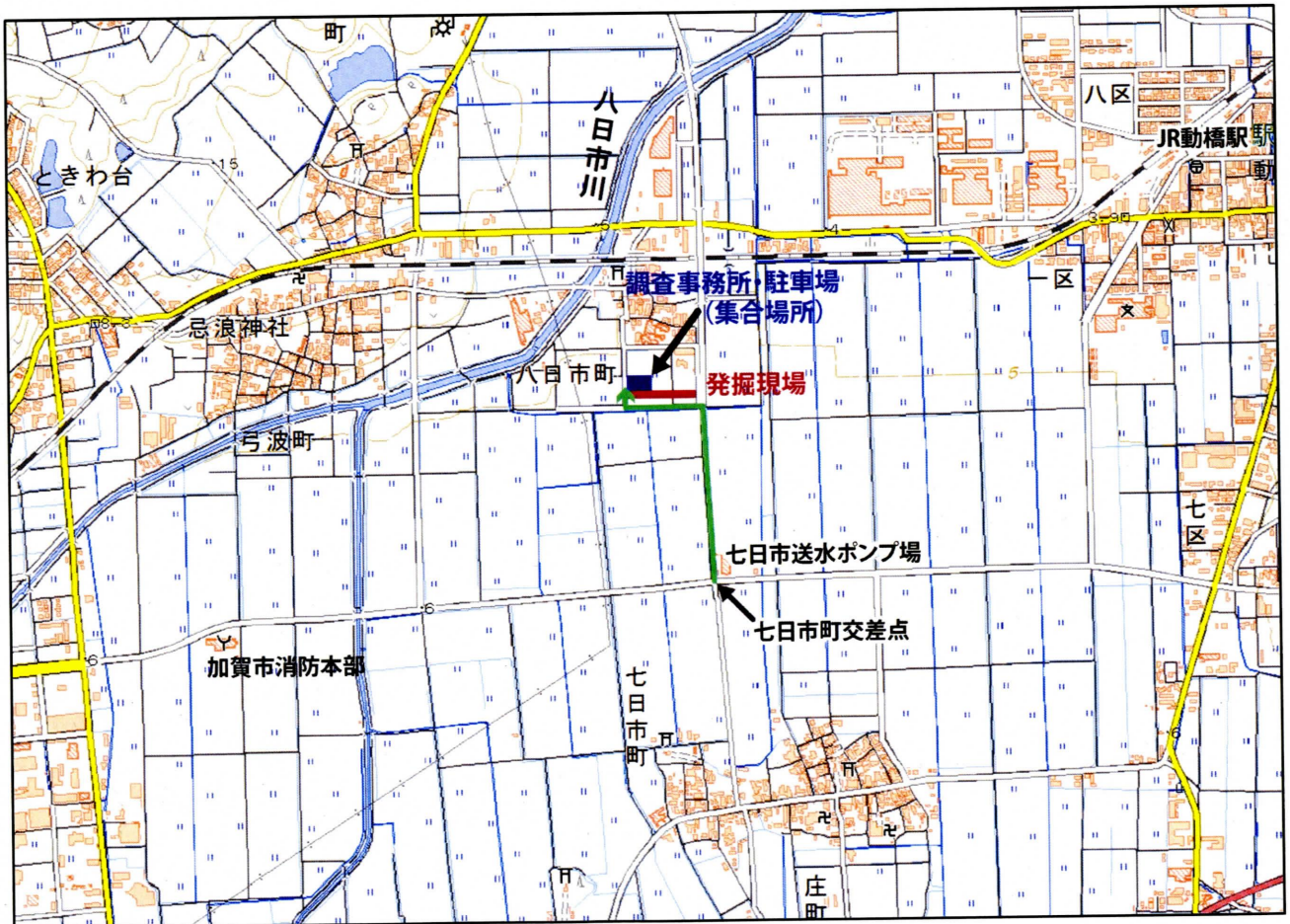
この他、火災により焼失した竪穴建物（5号住居）では、鉄滓（鉄を<sup>てっさい</sup>加工する際に出る不純物）が出土しており、鍛冶（<sup>かじ</sup>）が行われていたことも推定される。

これらのことから、八日市遺跡は古墳時代前期の金属器生産に関わる集落（工房群）であったと考えられ、在地首長が素材の入手から製品の流通までを掌握していたことが推測される。

- 9 主 催 石川県教育委員会・公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
- 10 問合せ先 ○（公財）石川県埋蔵文化財センター 調査部 特定事業調査グループ  
電話 076-229-4477（内線6540）  
○石川県教育委員会事務局文化財課 埋蔵文化財グループ  
電話 076-225-1842（内線5629）



八日市遺跡と周辺の主な遺跡



発掘現場案内図





八日市遺跡遠景（南から）



八日市遺跡遠景（西から）





竪穴建物（4号住居）



小型の炉跡（1号炉（左）、2号炉（右））





川跡からの遺物出土状況（土器、木製品）



銅鍔の未完成品（左：長さ 3.8 cm、右：同 4.2 cm）